

平成29年度英語科海外ホームステイ研修報告 7月25日（火）

オーストラリアに到着して早くも4日目の朝を迎えました。昨日の厳しい寒さは若干和らぎ、空気は澄み、ひんやりとした気持ちの良い朝となりました。そんな爽やかな朝に相応しく、生徒たちは今日もホストファミリーの送迎で元気に登校してきました。別れ際に家族と軽い挨拶を交わしている姿が多く見られ、こちらの生活に少しずつ慣れてきているように感じます。しかし、残念ながら今日も忘れ物と遅刻者が数名でてしまいました。気の緩みから大きな問題に発展する可能性もあるので、なぜそうなったか、明日からどうするのかを自分達で考えるよう伝えました。

今日から本格的に英語の授業がスタートしました。授業開始前に、ウォーミングアップとしてホストスクール Livingstone Christian College（LCC）の Rachel 先生が昨日学んだことについて全体で共有する時間を作って下さいました。まだまだ人前で発表する際に緊張から声が小さくなってしまっている生徒たちですが、昨日LCCの校長先生から教えた頂いた3つのキーワード（Don't be shy. Thank you. Please.）がずっと出てきたことに、生徒の心の中で何かが少しずつ変わり始めたと感じました。

その後は2クラスに分かれ、Joshua 先生と Peta 先生による英語のレッスンがスタートしました。発音や自己紹介など、座学ではなく、対話しながら進行するオーストラリア式の授業に、生徒は初め戸惑っている様子でしたが、徐々に慣れ、授業を楽しんでいました。先生の「ミスを恐れなくて（Be Brave.）」という声が何度も聞こえました。ここLCCでの授業は、英語力向上はもちろんですが、正解・不正解ではなく自分の意見を述べるため、そして、質問することは恥じるのではなく、むしろ勇敢なことだと知るためでもあります。英語のレッスンをとおして、生徒の行動が変わってくることを期待します。

午後からは高齢者福祉施設 Arcare Hope Island を訪問しました。こちらの施設は4年前に建てられ、白を基調とした開放的な設計になっており、施設内には床屋やカフェ、緑と花々が咲き乱れたバルコニーが設置されているなど、まるでホテルのように快適で清潔感のある空間でした。

到着してさっそく4つのグループに分かれ、入居者との交流を行いました。初めはどう接していいのかわからず、戸惑っていた生徒たちでしたが、次第にお年寄りの目線に合うように膝を曲げ笑顔で話しかけました。入居者の皆さんは耳が遠いため、名前や出身を何度も何度もゆっくりと相手の目を見ながら伝える郡高生。そんな彼らの姿に、入居者は優しい笑顔を見せ、終始暖かい触れ合いとなりました。

そしていよいよ、プレゼンテーションの発表です。続々と会場に入居者、施設のスタッフが集まりだし、生徒たちの緊張もピークに達しました。オープニングの空手の型の披露に始まり、合唱部の生徒による美しい歌声での校歌合唱、そして福島と日本の魅力を伝えるプレゼンテーションと続きました。特にプレゼンテーションはゆっくりと大きな声で、身振り手振りを加えながら相手に懸命に伝えようとする姿勢が見受けられました。中には「スクリプトを見ないように心がけたが、途中不安で見てしまった」と悔しさを滲ませる生徒もいましたが、その気持ちこそ成長するための大切なファースト・ステップとなります。「失敗は成功のもと。」どんどん挑戦し、多くの事を吸収して欲しいと思います。

フィナーレは、郡高生全員による「花は咲く」の大合唱で締めくくられました。生徒たちの一生懸命さが伝わり、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。生徒の若いエネルギーに鼓舞されたのか、お返しに入居者からのオーストラリア国歌斉唱 – 力強い歌声に心打たれた瞬間です。今回の出来事は、言語は一つのコミュニケーションツールに過ぎず、それよりも大切なことがあるということに気付くきっかけとなったのではないのでしょうか。生徒の「伝えたい」という思いが相手の心を突き動かし、この感動が生まれました。ぜひこの体験を残りの研修期間にも沢山して欲しいと思います。



施設訪問後は、Sanctuary Cove という美しい港に立ち寄り、東の間のショッピングを楽しみました。

明日は、早くも研修の折り返し地点です。生徒たちが「一日が過ぎるのが早い」と口を揃えて言うように、来た時は先を長く感じた研修も、この後さらに加速したように過ぎ去ってしまいます。帰国後に「あの時〇〇すれば良かった」という後悔を残さないよう、ここオーストラリアでしかできない体験と挑戦に力を注いで欲しいと思います。

